

第5回みえインバウンド誘客計画検討有識者会議 概要

1 日 時 令和8年6月8日（月） 13時30分から14時30分まで

2 出席者 石阪委員、伊与田委員、柴原委員、須崎委員、本保委員、三重野委員

3 主な意見

（1）全体

- みえインバウンド誘客計画（最終案）について、特に異議はない。
- 計画を県内観光関係者等と共有し、地域一体で目標達成を目指せるよう機運醸成していくと良い。
- セールスにあたっては重点国との関係性を作っていくことが大切。重点市場ごとに、旅行会社等と顔の見える職員を育成することが重要。
- 人事異動があっても計画で決めた取組を継続して取り組んでほしい。

（2）PDCAサイクル

- PDCAを回すには具体性、実効性が大事である。そのためにはデータをモニタリングすることが必要。地域別のデータや地域の思い、感情をくみ取れるようにできれば良い。
- 数値の達成状況だけを見るのではなく、なぜその数値になっているのか分析も必要。

（3）オーバーツーリズム対策（閑散期への対応）

- 閑散期対策として、その時期ならではのコンテンツ造成も有効である。
- 宿泊施設に加え、観光バスの駐車場台数や民泊の施設数からも旅行者をコントロールできる。
- オーバーツーリズムは人により感じ方が違い、イメージ論で語ると良くない。改善点を把握するため、事象を分解して課題を抽出することが重要。

（4）その他

- 鈴鹿でF1日本グランプリが継続開催されるよう取り組むべきである。従前はヨーロッパの富裕層にファンが多かったが、最近では若年層のファンの増えており、新しい層への波及が期待できる。